

兵庫県のエンマムシ類

(兵庫県甲虫相資料・132)

高橋 寿郎

日本産ホソエンマムシ科 (Niponiidae) については三輪勇四郎博士が1934年当時の日本産の綜説をまとめられ、その後中条道夫博士と共著で目録を發表された。さらに中条博士は新に1新種の記載をされた(1955)。現在この科の日本産は5種だと考えられる。内4種は中根博士により図説されている(1950, 1963)。この科の兵庫県下での産は今の所一種しかわかっていない。

日本産エンマムシ科 (Histeridae) の研究はMarseul (1873), Lewis (1874, 1879, 1882, 1884, 1888, 1892, 1894, 1899, 1907, 1914) によってその基礎が出来上ったのであるがその後は中根博士(1946, 1950, 1951, 1963, 1981), 大沢省三博士(1951, 1952)の研究があるものゝ日本産全般にわたる総括的論文は残念ながら現在まで現れていないと思われる。従って日本産の本科のものが現在いくらいるのかもはっきりしない。一応日本産本科のものを手許の資料でまとめてみた所78種が記録出来その内本州産が55種あった。(九州産は中根博士によると45種となっていた, 1981)。たゞ産地がJapanとのみしかわからないものが8種もあった。これ等の数字は概数として承知して頂きたい。

また一方では採集条件が次第に悪くなってこの仲間の分布状況を調べるのが大変困難になってきた。兵庫県下における分布も現在では余りよくわかっていない。調査の不充分の点はよくわかるが——特に海岸線近くでの調査——一応現時点での分布状況をまとめておくことにした。同定は出来るだけ正確を期したが何分にも浅学未熟のため誤りがあるかもしれない。これ等の点について御叱正、御教示御願ひ出来れば幸である。

Family Niponiidae ホソエンマムシ科

1. *Niponius osorioceps* Lewis, 1885 ヒメホソエンマムシ

初めに記したように本科の日本産は現在5種知られているだけであり、兵庫県下からは残念ながら本種1種の分布が知られているだけである。本種はLewisによって“Yuyama & Konose (Higo)”を産地に記載された種である(1885)。

県下での記録も大変少い。分布状況が良くわからない種である(小さいので見落されていると思われる)。

産地：宍粟郡福知溪谷 (1 ex., 17-VI-1975, M. Yuma leg. ^{*}), 赤西溪谷 (1 ex., 23-VI-1979). 水上郡〔山本, 1968〕.

Family Histeridae エンマムシ科

Abraeinae

1. *Abraeus bonzicus* Marseul, 1873 クロップエンマムシ

Marseulが“Nagasaki”産で記載された種である(1873).

腐敗動物質, 排泄物に集るとあるから調査不充分的種のようなのである。仲田氏は川西市笹部で鳥がらによる腐肉トラップで採集しておられる。

産地：川西市笹部〔仲田, 1979, 1982〕.

Saprininae

2. *Gnathoncus nanus* Scriba, 1790 マルマメエンマムシ

中根博士により図説されている(1950, 1963)。県下での記録が大変少い。もっと調べなくてはいけない種の1つである。

産地：川西市笹部〔仲田, 1982〕. 神戸市烏原 (1 ex., 9-V-1970).

3. *Saprinus splendens* Paykull, 1811 ルリエンマムシ

Paykullによって記載された種である (Mon. Hist., 1811, p. 53, t. 4, f. 7).

黒色で青藍色に光るので良くわかる種であり図説も多い。蛇や鳥獣の死体, 糞に集ることが知られている。犬の糞などに良く来ている。記録は大変少いが広く県下に分布していると考えられる。

本種の生活史に就いては望月進氏の報文がある(1980)。

産地：洲本市安乎町〔堀田, 1978〕. 神戸市御影〔関, 1933〕. 教育植物園 (1 ex., 9-VII-1961), 烏原 (1 ex., 3-VIII-1969, 1 ex., 18-VIII-1974), 藍那 (1 ex., 9-VII-1979). 城崎郡竹野西町〔高橋, 1978〕.

4. *Saprinus planiusculus* Motschulsky, 1849 ドウガネエンマムシ

*産地のところで〔 〕のものは文献からの引用, ()内は筆者採集並びに標本保管のもの。

Marseulが *Saprinus nitidulus* Paykullとして "Simabara (Kiu-Siu) et Hiogo (Nippon)", から記録している種が(1873)この種に当ると(中根, 1981). 中根博士は *S. cuspidatus* Inssenとして原色で図説されている(1963). 腐敗動物質, 糞に來集するとあるも筆者は該当種を県下で得ていない.
産地: Hiogo [Marseul, 1873].

5. *Hypocaccus sinae* (Marseul, 1862) ニセハマベエンマムシ

Marseulが "China, Ceylon, Australien", を産地に記載された種である. *Saprinus* 属 *Hypocaccus* 亜属とされている (Mon, 1862, p. 496, t. 17, f. 52).

和名のごとく海浜性のもので海岸線ぞいにいる種のようなのである. 従来県下ではMarseul による記録以外全く知られていなかった種であるが最近仲田氏が川西市の笹部で "鳥がらトラップ" で採集されたことが報告された. 次種とよく似るが中胸と後胸の界線が点刻列となっていることで(ハマベエンマムシは一本の溝となっている) 区別出来る.

筆者も明石市の海岸で打ち上げられている海藻の下を探して見つけることが出来た. 注意すれば可成りいるのではないだろうか.

産地: 川西市笹部 [仲田, 1979]. Hiogo [Marseul, 1874]. 明石市林崎 (6exs., 13-IV-1983, 2exs., 30-V-1983).

6. *Hypocaccus varianus* (Schmidt, 1890) ハマベエンマムシ

本種は前種によく似た種である. 中根博士による図説がある (1950, 1955, 1963).

小笠原諸島父島には亜種 *hatsune* Nakane, 1977 が分布している.

白浜の宮の海岸に打ちあげられて可成り固くなった魚の死体にきていたのを採集した. 淡路島の岩屋及び松帆の浦, 明石市の林崎海岸の海藻の下に多くいることがわかった.

産地: 津名郡淡路町松帆の浦 (3exs., 21-IV-1983). 明石市林崎 (22exs., 13-IV-1983, 67exs., 30-V-1983). 姫路市白浜の宮 (6exs., 20-IX-1979).

Dendrophilinae

7. *Dendrophilus xavieri* Marseul, 1873 オオマメエンマムシ

Marseulにより "Japan", を産地に記載された種である (I. C., p. 226, 1873).

中根博士の図説がある (1963).

県下の記録は次のものを知るだけである. やはり調査不充分的種である.

産地：城崎郡日高町神鍋〔高橋，1976〕。

8. *Carcinops pumilio* Erichson, 1834 クロチビエンマムシ

中根博士により図説されている(1950, 1963)。従来 *C. quatuordecimstriat* の学名が使用されていたが中根博士は上記 *C. pumilio* として扱っておられると共に貯穀中の甲虫であると記しておられる(国立科博専報, 10巻, p. 149, 1977., 原色昆虫大図鑑第II巻, 甲虫編, 追補, 正誤表, p. 3, 1978)。

Hiogoの記録はSchönfeldtの目録の中に出ている(Jahrb. d. nass. Ver. f. Natur. 40, 1887)。

醱酵植物質などにくるともなっているが筆者は茸に來ているのを採集した。

県下には広く分布しているのではないが、小形種なので見つけにくい。

産地：川西市笹部, 東畔野〔仲田, 1978, 1982〕。Hiogo〔Schönfeldt, 1887〕。神戸市烏原(1ex., 26-VII-1961, 1ex., 2-VI-1963)。城崎郡香住町小原〔高橋, 1978〕。

9. *Anapleus semen* (Lewis, 1884) ツブエンマムシ

Lewisが“Kiga near Miyanoshita,”産でもって *Tribalus* 属で記載された種である(1884)。中根博士による図説がある(1963)。

筆者は県下で腐敗した茸にきていた1ex.を採集した。

産地：神崎郡大河内町砥ノ峯(1ex., 23-VII-1977)。

10. *Bacanius niponicus* Lewis, 1879 アカツブエンマムシ

Lewisにより“Nagasaki,”産で記載された種である(1879), 中根博士による図説がある(1963)。

仲田氏は立枯れのクヌギの樹皮下より採集しておられる。筆者は薪より採集した。小形種なので余りよく分布の知られていない種だと考えられる。

産地：川辺郡猪名川町槻並(1ex., 2-VII-1978), 内馬場〔仲田, 1979, 1982〕。

11. *Platylomalus mendicus* (Lewis, 1892) ヒメチビヒラタエンマムシ

Lewisによって *Paromalus* 属で記載された(Ann. Mag. Nat. Hist. (6) IX, 1892, p. 33)。

中根博士により図説されている(1963)。

個体数は少い。薪より得た。

産地：川辺郡猪名川町槻並 (1ex., 2-VII-1978). 城崎郡城崎町 (1ex., 25-X-1978).

12. *Platylomalus niponensis* (Lewis, 1899) オオチビヒラタエンマムシ
Lewisにより "Japan," を産地に *Paromalus* 属で記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist., (7) IV, 1899, p. 21).

中根博士による図説がある (1963).

県下の記録は次のものがあるだけで分布が余りはっきりとしない。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。

Tribalinae

13. *Onthophilus ostreatus* Lewis, 1879 オオセスジエンマムシ
Lewisにより "China," 産で記載された種である (Ent. Monthly Mag., XVI, 1879, p. 78). 日本からは同じく Lewis が "Yokohama," で Pryer 採集のもので報告されたものが始めてである (Ann. Mag. Nat. Hist., XIII, 1884, p. 139).

図説は中根博士のものがある (1950, 1955, 1963).

畑の堆肥, 施肥後の畑などに多く発見されているとされているが最近では堆肥の方法が変わるので本種の発見が困難になっているのではないだろうか。県下での記録は大変少い。筆者は県下で未採集。

産地：神戸市御影〔関, 1933〕, 本山〔中根, 1955〕。

Histerinae

14. *Notodoma fungorum* Lewis, 1884 キノコアカマルエンマムシ
Lewisにより "Japan," を産地に記載された種である (1884).

多くの図説がある。多孔菌にくる。

県下ではやゝ山地性のようだが普通に見られる。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。多可郡鳥羽 (9exs., 5-VII-1975)。飾磨郡雪彦山 (1ex., 14-VII-1957)。宍粟郡赤西 (1ex., 25-VI-1972, H. Hatanaka 1eg., 1ex., 23-VII-1979)。城崎郡三川山〔高橋, 1975〕。養父郡氷の山 (5exs., 2-VIII-1953, 10exs., 4-VIII-1965, K. Tsuji 1eg.)。美方郡扇の山〔辻, 1964, 辻, 岸田, 1972〕。

15. *Hister concolor* Lewis, 1884 クロエンマムシ

Lewisが "Ishikari river," 産で記載された種である。中根博士の図説がある (1963)。県下での記録はそれ程多くない。少い種のように思われる。

産地：津名郡岩屋 (1ex., 25-IV-1959)。川西市笹部〔仲田, 1982〕。神戸市烏原 (1ex., 7-VII-1980, 1ex., 10-V-1981)。多可郡三谷 (1ex., 13-IX-1975)。

16. *Hister congener* J. Schmidt, 1885 イブシエンマムシ

H. V. Schönfeldtの日本産甲虫目録の中で産地をHiogoとして記録している (Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde 40:83, 1887)。J. Schmidtの原記載 (Deut. Ent. Zeit., 1885, p. 242)を見ていないので原産地なのかSchönfeldtの記録なのかよくわからない。

中根博士による図説もある (1963)。筆者は残念ながら該当種を県下から得ていないし記録も之以外知らない。

産地：Hiogo〔Schönfeldt, H. V., 1887〕。

17. *Hister japonicus* Marseul, 1854 ヤマトエンマムシ

Marseulが "Nikko et Kiushu," を原産地として記載された種である (Ann. Soc. Ent. Fr. (3)ii, p. 201, t. 6, f. 22, p. 201, 1854)。

大沢, 中根両博士による詳しい図説 (1951), 中根博士の原色図説がある (1955, 1963)。獣糞, 腐敗動物質に多くいる種で県下にも広く産する。

産地：津名郡岩屋 (1ex., 26-IV-1959)。三原郡西淡町慶野松原 (1ex., 26-V-1983)。川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田, 1982〕。川西市笹部〔仲田, 1979, 1982〕。神戸市御影〔関, 1933〕。烏原 (1ex., 16-VII-1967, 1ex., 14-V-1980, 1ex., 26-V-1981, 1ex., 27-V-1981), 押部谷 (2exs., 15-IX-1980, 1ex., 21-IX-1980, 1ex., 5-X-1980)。朝来郡生野 (1ex., 4-IX-1955)。佐用郡大撫山 (5exs., 15-IX-1971)。氷上郡〔山本, 1958〕。養父郡妙見山 (1ex., 4-VI-1975, M. Yuma leg.)。

18. *Hister jekeli* Marseul, 1857 エンマムシ

本種はMarseulによって "Shanghai, China," 産で記載された種である (Mon. 1857, p. 417, t. 10, f. 62)。日本からは同じくMarseulが1873年に記録した (Ann. Soc. Ent. Fr. (5)III, 1873)。

多くの図説がある。横山桐郎博士は *H. jamatus* Motschulsky, 1866 として図説しておられる(日本の甲虫, pl. 14, f. 1, p. 108, 1922)。

日本全土に分布し獣糞腐敗動物質に多くて日本のエンマムシの代表的な種の1つである。県下での分布も広い。

産地：洲本市安乎町〔堀田, 1978〕。津名郡津名町大町〔堀田, 1978〕。川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市御影〔関, 1933〕。六甲山(1ex., 15-VII-1956), 平野(1ex., 17-X-1959), 鳥原(1ex., 22-VIII-1954, 1ex., 14-VII-1980), 白川(1ex., 22-V-1955), 押部谷木見(1ex., 15-IX-1980)。多可郡三谷(2exs., 13-IX-1975)。氷上郡〔山本, 1958〕。出石郡但東町佐々木〔高橋, 1963〕。豊岡市上陰〔高橋, 1975〕。城崎郡香住町小原〔高橋, 1975〕。養父郡氷の山〔高橋, 1959〕。

19. *Hister pirithous* Marseul, 1873 ツヤマルエンマムシ

Marseulによって“Hiogo et Nagasaki,”を原産地として記載された種である(1873)。

大沢, 中根両博士によって図説されている(1951)。

本種も結構獣糞などに多くいる種で県下の分布も広いようである。

産地：Hiogo〔Marseul, 1873〕。神戸市保久良山(1ex., 12-V-1978)。多可郡市原(2exs., 24-IX-1972), 三谷(2exs., 15-IX-1974, 3exs., 26-VIII-1975, 8exs., 13-IX-1975)。佐用郡大撫山(3exs., 15-IX-1971)。養父郡氷の山(1ex., 25-VII-1955)。

20. *Hister punctulatus* Wiedemann, 1817 アラメエンマムシ

原産地は“Java,”である(Zool. Mag., I, 3, 1817, p. 162)。日本からはMarseulが1873年“Nippon et Kiu-Siu,”を記録した(Ann. Soc. Ent. Fr. (5) III, 1873, p. 220)。

中根博士によって図説されている(1963)。

県下では次の標本を得たゞけでありよく分布のわからない種である。

産地：神戸市鳥原(1ex., 22-VII-1934)。

21. *Hister simplicisternus* Lewis, 1879 ヒメツヤエンマムシ

Lewisにより“Hiogo,”を原産地に記載された種である(1879)。普通に産すと原記載にある。獣糞に來ている種であるが県下では産地を余り知られていない種である。

産地：Hiogo [Lewis, 1879]. 多可郡三谷 (11exs., 2-VIII-1975, 1ex., 26-VIII-1975, 5exs., 13-IX-1975).

22. *Margarinotus niponicus* (Lewis, 1895) コエンマムシ

Lewisにより“Japan,”を産地としてHister属で記載された(Ent. Monthly Mag., XXXI, 1895, p. 186). MarseulがHister navus Marseulとして記録(1873)した種もこれに該当すると(中根, 1981). 大沢, 中根両博士の図説(1951), 中根博士の原色図説(1963)がある.

腐敗動物質に集り分布も広いようである.

産地：川辺郡猪名川町上阿古谷 [仲田, 1982]. 川西市笹部 [仲田, 1982]. 神戸市六甲山 (1ex., 15-VII-1956), 烏原 (1ex., 12-V-1980, 3exs., 16-VII-1981). 多可郡三谷 (4exs., 26-VIII-1975). 神崎郡大河内町低ノ峯 (2exs., 23-VII-1977, 1ex., 3-IX-1977). 佐用郡大撫山 (2exs., 15-IX-1971). 宍粟郡音水 (1ex., 11-VI-1972). 氷上郡 [山本, 1958]. 養父郡水の山 (1ex., 21-VII-1959). 美方郡扇ノ山 [辻, 1963., 辻, 岸田, 1972].

23. *Margarinotus weymarni* Wenzel, 1944 ヒメエンマムシ

LewisがHister cadaverinus Hoffmannとして“Common in all the islands,”として記録(Ent. Mon. Mag., Vol. X, p. 174, 1874)された種がこの種に当たると(中根, 1981).

中根博士による原色の図説がある(1955).

腐敗動物質に来るので県下では広く分布しているように思われる.

産地：津名郡岩屋 (1ex., 26-IV-1959). 川西市笹部 [仲田, 1979, 1982]. 神戸市御影 [関, 1933], 中津浜 [中根, 1955], 烏原 (1ex., 11-VI-1981). 多可郡三谷 (1ex., 24-V-1975). 氷上郡 [山本, 1958]. 養父郡水の山 (1ex., 21-VII-1954).

24. *Athalus depistor* (Marseul, 1873) ムナクボエンマムシ

Marseulが“Nagasaki,”を原産地にHister属で記載された種で“稀れ,”と書かれている(1873).

大沢, 中根両博士の図説(1951)並びに中根博士の原色図説がある(1963).

獣糞とか腐敗動物質に割合多く見られる種である.

産地：洲本市安乎町 [堀田, 1978]. 三原郡慶野松原 (1ex., 26-V-1983). 津名郡岩

屋 (9 exs., 25-IV-1959). 川西市笹部, 横地 [仲田, 1978, 1982]. 神戸市押部谷木見 (2 exs., 24-VIII-1980), 広野 (1 ex., 10-IV-1955). 多可郡市原 (1 ex., 24-IX-1973), 三谷 (1 ex., 29-IX-1974, 1 ex., 2-VIII-1975, 1 ex., 26-VIII-1975, 1 ex., 3-IX-1975). 朝来郡生野 (1 ex., 4-IX-1955).

25. *Atholus duodecinstriatus quinquestriatus* Motschulsky, 1860 コツヤエンマムシ

Marseul が *Hister 14-striatus* Gyll., Nagasaki (Kiu-Siu) ; common と記録し (I. C., p. 220, 1873), Lewis も *H. 14-striatus* Gyl. Common in all the islands と記録している (I. C., p. 174, 1874) 種がこの種に当たると (中根, 1981).

中根博士による図説がある (1950, 1955).

平地から山地にかけて見られ, 動物の糞, 腐敗動物質に集り, 成虫は春早くから夏にかけて多く見られると云われているが従来記録があまりない. もっといるように思われる. 再調査をしなくてはならない.

本種的生活史は望月 進氏のものがある (昆虫と自然, 15 巻, 3 号, p. 13-17, 1980).

産地: Hiogo [Schönfeldt, 1887]. 神戸市烏原 (1 ex., 5-VI-1976), 押部谷 (2 exs., 24-VIII-1980). 多可郡三谷 (2 exs., 15-IX-1974, 1 ex., 2-VIII-1975). 城崎郡日高町日野 [高橋, 1976].

26. *Platysoma celatum* Lewis, 1884 ヒメナガエンマムシ

Lewis により横浜産標本で記載された種である (1884).

大沢, 中根両博士による図説がある (1951).

県下では広く分布していそうである. 薪などに見られる.

産地: 川辺郡猪名川町槻並 (1 ex., 4-V-1979). 川西市笹部 [仲田, 1979, 1982]. 神戸市烏原 (1 ex., 5-VI-1976), 山の街 (1 ex., 30-IV-1963), 谷上 (1 ex., 29-IV-1958), 白川 (1 ex., 26-I-1979). 城崎郡三川山 [高橋, 1978]. 養父郡氷の山 (1 ex., 25-VII-1955).

27. *Platysoma lewisi* Marseul, 1873 オオナガエンマムシ

Marseul により "Hiogo et Nagasaki, rare 3 exemplaires," として記載された種である (1873). 原産地の一つは兵庫 (神戸) であるが県下からの記録は余り知られて

いない種である。筆者は松の材より得た。

産地：川西市横地，笹部〔仲田，1978，1982〕。Hiogo〔Marseul，1873〕。朝来部生野（1ex.，8-VII-1956）。

28. *Platysoma pini* Lewis, 1884 マツナガエンマムシ

Lewisにより“Hiogo, Isei,”を産地に記載された種である（1884）。

中根博士の図説がある（1955，1963）。

マツなどの材にくる種とのことであるが県下からの記録は大変少い。

産地：明石市大久保（1ex.，13-IV-1964）。美方郡扇ノ山〔辻，1963.，辻，岸田，1972〕。

29. *Cylister lineicolle* (Marseul, 1873) ナガエンマムシ

Marseulにより“Kiu-Siu,”産で*Platysoma*属で記載された種である（1873）。原記載には“枯松に多くいる。10頭の標本による,”と記してある。

神谷一男氏が原色で図説されたことがある（1937）。中根博士の図説もある（1950，1955，1963）。幼虫に就いて黒佐博士の図説がある（1959）。

県下には広く分布しているようだがそれ程個体数が多いとは思えない。

産地：洲本市先山〔久松，1973〕。川西市大和，笹部〔仲田，1970，1982〕。神戸市本山〔中根，1955〕。多可郡烏羽（1ex.，9-VI-1975）。氷上郡〔山本，1958〕。出石郡但東町中藤〔高橋，1963〕。

30. *Hololepta amurensis* Reitter, 1879 オオヒラタエンマムシ

本種は種名にあるようにReitterによってアムール原産で記録された種である（*Deutsche Ent. Zeit.* XXIII, p. 213, 1879）。

日本からの初記録はLewisによって北海道の“Junsai lake,”が報告された（1884）。

日本全国に分布している種のようなのであるが兵庫県下からは次の記録を知るのみで分布のわからない種である。

産地：氷上郡〔山本，1958〕。美方郡扇ノ山〔辻，1963.，辻，岸田，1972〕。

31. *Hololepta depressa* Lewis, 1884 ヒラタエンマムシ

本種はLewisにより“Kumagawa in Higo, Ishikari river in Yezo,”を産地に記載された種である（1884）。

こちら日本全国に分布している種であるが兵庫県下からの記録は今迄全く無かった。よく調べなくてはいけない種の1つである。

一般にこのヒラタエンマムシ属のものは樹皮下、伐木にみられると云われていて樹液にも来るそうである。鳥羽での産は樹皮下から得たものである。

産地：多可郡鳥羽(1ex., 5-VII-1975)。

32. *Hololepta nigonine* Lewis, 1894 ヒゴヒラタエンマムシ

本種は種名のごとくLewisがHigo(肥後)産で記載された種である(Ann. Mag. Nat. Hist. (6)XIV, 1894, p. 174)。

Lewisが1884年“Higo, Konose, Yuyama, 産で記載された*H. parallela*は本種のシノニムである。

大変平たい種で黒色滑沢きれいな種である。神戸市内の鳥原でアカメヤナギの樹に来ているのを採集した(きべりはむし, 10巻, 2号, p. 26, 1982)。

産地：神戸市鳥原(1ex., 8-VI-1982)。

33. *Hetaerius gratus* Lewis, 1884 アカアリスカエンマムシ

Lewisによって“midway between Shimonosuwa and the Wada-toge, August, 1, 1881, ”を産地として記載された種である(1984)。

中根博士の原色図説がある(1963, 1975)。

原記載にも蟻と共に発見されたことが記してあるがアリの巣の中にいることが知られている種である。なかなか採集出来ない種である。神戸市内の白川でピットフォールトラップにて得ることが出来た。脛節は葉片状に強く広がる。

長谷川 仁, 久保田政雄両氏はクロヤマアリ *Formica fusca* var. *japonica* Motschulskyの巢中より発見したと報告され(1944), 田野口康彦, 小塩政行両氏はツノアカヤマアリ, クロヤマアリの巢中より採集されると共に蟻の巣の中心域で成虫越冬するのではないかと記しておられる。

産地：神戸市白川(1ex., 25-VIII-1979)。

以上兵庫県産ホソエンマムシ科1種, エンマムシ科33種の分布を記録した。エンマムシ科の分布は一応本州に産する代表的な種はほとんどこ産するようであるが残念なことに現時点で特に珍しい種の産出とか特産種と云うのはないようである。一方始めに記したように調査条件がだんだん悪くなっているのに充分調べられない点が多くある。一応現時点での詳しい調査を早くなんとかしておかな

くとはと考えている。

参 考 文 献

参考文献は筆者の所有しているものゝみを掲げた。兵庫県産に関する文献は拙著“兵庫県産甲虫類に関する文献目録(1981)”,を参照頂きたい。

1873. Marseul, M. C. A. Coleopterus du Japon recueillis par M. George Lewis.

Enumerations des Histerides et des Hétéromires.

Ann. Soc. Ent. Fr. 5(3):219-230.

1879. Lewis, G. On certain species of Coleoptera from Japan.

Ann. Mag. Nat. Hist., (5)IV:459-467.

1884. Lewis, G. On some Histeridae new to the Japanese Fauna, and Notes of others.

Ann. Mag. Nat. Hist., (5)XIII:131-140.

1885. Lewis, G. On a new genus of Histeridae.

Trans. Ent. Soc. London, p. 331-334.

1889. Lewis, G. On new Species of Histeridae and Notices of others.

Ann. Mag. Nat. Hist. Ser. 7, Vol. IV:1-29.

1901. Lewis, G. On new species of Histeridae.

Ann. Mag. Nat. Hist. VIII:366-383.

1901. Reitter, E. Fauna Germanica, Bd. II.

1904. Lewis, G. On new species of Histeridae.

Ann. Mag. Nat. Hist. XIV(7):137-151.

1906. Lewis, G. On new Species of Histeridae and Notices of others.

Ann. Mag. Nat. Hist. Ser. 7, p. 180-191, 397-403.

1907. Lewis, G. On new Species of Histeridae and Notices of others.

Ann. Mag. Nat. Hist.,XIX(7):311-322.

1910. H. Bickhardt. W. Junk Coleop. Cat. Pars. 24, Histeridae.

1913. Lewis, G. On new Species of Histeridae and Notices

of others with Description of new Species of Niponius.

Ann. Mag. Nat. Hist. XII (8):351-357.

1914. Lewis, G. On new Species of Histeridae and Notices of others.

Ann. Mag. Nat. Hist. Ser. 8, Vol. XIV:283-288, pl. 15.

1931. S. Schenkling. W. Junk Col. Cat. Pars. 117, Niponiidae.

1930. 安立綱光. 日本産 *Onthophilus* 属及 *Helolepta* 属, 附一新種の記載. 昆虫, 4 (4):247-252.

1934. 三輪勇四郎. *Niponidae* の解説. 昆虫界, 2 (11):476-486, pl. 1.

1937. 神谷一男. 日本産甲虫類図譜(一). 日本の甲虫, 1 (1):4, pl. 1.

1938. 三輪勇四郎. 日本甲虫分類学.

1938. 三輪勇四郎. 中条道夫. 日本産鞘翅目分類目録, Pars. 6.

1944. 長谷川 仁, 久保田政雄. 一・二の日本産好雌性及び好白雌性昆虫に就いて. 関西昆虫学会々報, 14 (1):84-86.

1950. 横山桐郎, 中根猛彦. 日本昆虫図鑑(北隆館).

1950. 中根猛彦. 日向高鍋産甲虫類小録(2). 昆虫世界, 50 (572):1-2, Fig.

1951. 大沢省三, 中根猛彦. 日本産えんまむし科の研究(1). 宝塚昆虫館報, 79:1-10.

1951. 大沢省三, 新宮・那智附近のえんまむし. 紀州昆虫, 3 (1):13-14.

1952. Osawa, S. On some Species of Histeridae from Japan and its Adjacent District (Col.). Entom. Rev. Japan 6(1):4-6.

1955. Chūjō, M. Description of a new *Niponius* Species from Japan (Coleoptera, Niponiidae). Akitu 4 (3):57-59.

1955. 中根猛彦. 原色日本昆虫図鑑(上)(保育社).

1959. 黒佐和義. 日本幼虫図鑑(北隆館)

1960. 久松定成. 日本産微小甲虫図説(II). あげは, 78:1-2.

1961. Nakane, T. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions XV. Fragm. Coleop. Pars. 1:4.

1963. 中根猛彦. 原色昆虫大図鑑, 第2巻(甲虫編)(北隆館).

1974. 林 長閑. ツノブトホソエンマムシの生態. 昆虫と自然 9 (10):29, pl.

1975. 中根猛彦. 学研中高生図鑑, 昆虫II(甲虫)(学習研究社).

1977. 中根猛彦. 小笠原諸島に分布する一部の甲虫類について(新種記載を含む). 国立科博

専報, (10): 147-162.

1979. 田野口康彦, 小塩政行. アリヅカエンマムシと宿主蟻の記録. 甲虫ニュース 47: 8.

1980. 望月 進. コツヤエンマムシとルリエンマムシの生活史について. 昆虫と自然, 15 (3): 13-17.

1981. 中根猛彦. 九州本土から記録されたエンマムシ類. 長崎県生物学会誌(21): 7-10.

1983. 西川正明. ホソエンマムシの幼虫の食性. 月刊むし (144): 32-33.

洲本市にてウスイロコノマチョウ採集

洲本市安乎町にて, ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda* Linnaeus 夏型1♀を採集したので報告する.

採集年月日 1983年8月6日

採集地 洲本市安乎町浜

採集者 前川和昭

当日朝7時, メダケの藪にあるクヌギの樹液にきていた所を発見. 個体もほとんど汚損していない.

なお, 同8月8日 17:30頃同じ藪にて2頭目を目撃したが, 雌雄の別はわからない. なお, 標本は筆者が保管している.

(前川和昭)

アカシジミの採集例

アカシジミ *Japonica lutea* は, 島内においてはかなり採集されているが, 筆者も下記のように本種を採集したので報告しておく.

洲本市安乎町, 1♀, 19. VI. 1983

なお, 洲本市安乎町においては, これまでにウラナミアカシジミはかなり採集したり, 目撃したりしているが, アカシジミの採集は初めてである.

(堀田 久)